

読売俳壇

高野ムツ才選

水鉄砲程度で済めば良きものを

神奈川県 中島やさか

【評】水鉄砲遊び。はじめは笑い声が弾ける。しかし、水鉄砲の勢いが高じて、そのうち取っ組み合いの喧嘩となる。戦争も得てしてそんなきつかけから始まるか。「程度」が意味深。遠花火すでに発車の車窓より

越谷市 安居院半樹

【評】花火大会に合わせての帰郷。楽しみにしていたのだが、急な所用が入った。遠ざかる車窓から慈むように見つめる姿が見えてくる。

老二人二階へ急ぐ遠花火

東京都 太田 節子

【評】花火大会が始まった。せめて雰囲気だけでもと手を取り合って二階に登る。「老二人」が二人暮らしの日々までしみじみと伝える。虫時雨十基あつてもみな魔灯

郡山市 寺田 秀雄

辺境の地などなかりし羊雲

つくば市 有阪 貴男

蛇きらひなのによつぱり見てしまふ

香川県 福家 市子

一村は湖底にありて晩夏光

秋田市 小林 春光

天道虫死したる翅の収まらず

福島県 黒沢 正行

鶏頭や空には空の色確か

東大阪市 木田 博幸

近づけば鶴草翼広げたる

仙台市 佐藤 庄陸

正木ゆう子選

土用芽のスクと伸びて交差せり

東京都 松永 京子

【評】土用芽とは、梅雨が明け、厳しい暑さとなる土用の頃に出る新芽。二本が真つすく伸びて、交差しているとは、具体的。何の枝だろう。ものみな勢いを増す夏本番の景。酷暑日や小さき木陰も見逃さず

さいたま市 春日 重信

【評】四十度以上の酷暑日が珍しくない時代。木陰はもちろん、電柱の細長い陰にさえ身を寄せる日々。自前の陰を持ち歩く日傘は、必需品。早々と湯殿へ霧の長廊下

厚木市 伊藤 欣次

【評】廊下に霧、というだけで、山中の温泉が想像される。湯殿が遠いのはそこで湧いているからだろう。宿に着くなり、先ずは念願のお湯へ。山の日や今も何処かの森が燃ゆ

山武市 川島 隆

蟬声に覚め昨夜の雨今朝の晴

東大阪市 渡辺美智子

甘やかにパイナップルは武装する

神戸市 浅野 洋子

象絶えず砂を浴びる酷暑かな

宝塚市 広田 祝世

滝壺に水の根つこのありにけり

宮崎市 長友 聖次

頑張れと写し返せる夏鏡

佐野市 村野 則高

具沢山の味噌汁吹くや朝ぐもり

相模原市 芝岡 友衛

小澤 實選

「冷房を弱めて下さい」と頼む

狭山市 小俣 友里

【評】室外は炎暑なのに、室内は冷房を利かしすぎている。寒すぎて耐えられない。事情があり、この部屋から離れることもできない。係の人に必死のお願いをしているのだが。生え初めし歯もて幼子もろこし食ふ

横浜 市 佐藤 祐一

【評】幼い子が生え始めたばかりの歯でとうもろこしを食べている。歯よりもろこしの一粒の方が大きいかも。しかと味わえているようだ。わやわやと生る蟪蛄鎌振りし

常滑市 さるく

【評】かまきりの子が躰る際の形容に「わやわやと」は巧みである。そのうちのひとつは、もう小さな鎌を振りまでしている、というのだ。天井に蟬鳴く今朝の電車かな

柏市 佐藤 敏文

中華そば鳴門が浮けば海の家

東京都 三田 忠彦

秋立つや硬めの糊の白シート

神戸市 遠藤 音々

泡つけて幸せな顔ビール好き

狭山市 茶練児

木の幹に獣の歯型夏の月

和歌山市 針谷 国光

床光る剣道場や蟬時雨

横浜市 塚本 文武

大くらげ網を重うす能登の海

茨城県 杉山 満